

令和3年度使用  
中学校用教科用図書  
採択参考資料

音 楽

一般

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
17 教出	音楽 701・801・802
27 教芸	音楽 702・803・804

器楽合奏

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
17 教出	器楽 751
27 教芸	器楽 752



# 音 楽

## I 教科用図書の調査研究に当たって

### 1 調査対象教科用図書

17 教出 27 教芸

### 2 調査研究の観点

- (1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 音楽の記号及び用語、図や写真、挿絵等が適切であり、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などと関連付けやすいよう配慮されているか。

### 3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

## II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(3)
  - ① 領域や各活動のページ数と我が国や郷土の音楽、諸外国の音楽等が扱われている楽曲数
  - ② 我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽の楽曲数
- (2) 学習指導要領に関する事…………… 観点(1)
- (3) 実生活との関わり、興味や関心について…………… 観点(2)
- (4) 表記や表現、資料等に関する事…………… 観点(4)

1 概括的な調査研究

(1) 領域や各活動のページ数と我が国や郷土の音楽、諸外国の音楽等が扱われている楽曲数

○「A表現（歌唱、創作）」及び「B鑑賞」のページ数

領域	活動	1年	2・3年上	2・3年下	合計
A表現	歌唱	48	38	39	125
	創作	8	4	4	16
B鑑賞		28	38	25	91

※巻頭、巻末の楽曲を含む。

○「A表現（器楽）」の楽曲数とページ数

A表現	器楽	リコーダー		ギター		和楽器		アンサンブル	
		曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数
		29	16	5	10	12	31	24	34

(2) 我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽の楽曲数

1年	2・3年上	2・3年下	器楽	合計
8	5	4	17	34

※我が国や郷土の音楽は、我が国のわらべ歌・民謡・古謡・長唄・雅楽・我が国の伝統楽器を使用した音楽、諸外国の音楽は、諸外国の遊び歌・民謡・民族音楽とする。

2 学習指導要領に関すること

- 「学びのユニット」で、ねらいや教材、[共通事項]に示された音楽を形づくっている要素が提示されている。
- 歌唱、器楽、創作、鑑賞の内容が関連付けて構成されている。
- 具体的な活動例として、一般教科書の各分野・領域の冒頭に「すすんで学び合おう」というページが配置されている。
- 「比べてみよう」「深めてみよう」というページが設定され、主要教材と関連のある教材が掲載されている。
- 生徒が自分の考えを書き込み、整理するため、直接教科書に書き込めるワークシートが設定されている。
- 生徒が感じ取った曲想、曲想と音楽との関わり等をまとめ、交流できるよう「話し合おう」という活動が設定されている。
- 共通教材が、「日本の歌 みんなの歌」として各学年に配置されている。
- 創作では、3年間を通して学習できるよう構成されている。
- 鑑賞教材において、聴く際の道筋となる主な旋律、演奏している楽器等が示されている。
- 鑑賞教材において、作曲家やその音楽が作られた背景等の説明が記されている。
- 我が国や郷土の音楽において、表現と鑑賞を関連付けた活動が設定されている。
- 諸外国の音楽が示され、音楽の共通性や固有性について考え、多様性を理解することができるようになっている。
- 全ての教科書に、「何が同じで、何が違う」という比較鑑賞教材が設けられ、音楽文化の理解を深めることができるようになっている。
- 器楽の教科書では、見開きごとに学びのねらいが示され、ゴールとなる「まとめの曲」が設定されている。
- 器楽の教科書では、「唱歌について」のページを新設し、和楽器の種類ごとに例示するとともに、和楽器の楽譜に口唱歌（唱歌）が表記されている。
- 道徳等、他教科との横断的な学習に配慮した教材が示されている。

### 3 実生活との関わり、興味や関心について

- 一般教科書の巻頭ページには、共通教材にゆかりのある地の写真と、楽曲の歌詞が示されている。
- 一般教科書に、楽曲の一部の自筆譜とともに、作者の思いを知るための文章が示されている。
- 2・3年上下の教科書には、それぞれに応じたテーマで「私たちのくらしと音楽」のページが設けられている。
- 1年と2・3年下において、言葉のリズムや抑揚を生かした旋律づくり等、身近な題材を用いた創作の学習ができるページが設けられている。
- 2・3年上では著作権に関するページが設けられている。
- 2・3年下では音楽を生かせる仕事や活動について掲載されている。
- 「SDGs」との関連を配慮した教材が掲載されている。
- 指揮等、体を動かしたり伝統芸能を体験したりする活動が取り入れられている。
- 2・3年上において、他学年の教科書と比べて多くの鑑賞教材が掲載されている。
- 器楽の教科書の巻頭には、さまざまな楽器を演奏している写真が見開きで示されている。
- 音の波形等、身近な音に関する物理的な学びのページが設けられ、実生活との関わりを意識できるようになっている。

### 4 表記や表現、資料等に関すること

- 全ての教科書の表紙には、これから取り組む教材や楽器をイメージしたイラストが描かれ、教科書ごとに色分けがされている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。
- 全ての教科書に「まなびリンク」のQRコードやURLが掲載され、音声や映像、ワークシートが示されている。
- キャラクターのつぶやきが、表現や鑑賞のヒントとなるよう配慮されている。
- 全ての教科書の目次が、学習の見通しをもてるように構成されている。
- 鑑賞教材において、ページの端に音楽年表が示されている。
- 一般教科書の巻末に、鑑賞の参考となる写真が折込を利用して掲載されている。
- 巻末に「楽典」として、[共通事項]がまとめられている。
- 一般教科書に「日本の歌 みんなの歌」と「歌のアルバム」が設定されている。
- 「比べてみよう」と「深めてみよう」のページはアイコンで示され、主要教材の場合はページの下部に、関連した教材の場合はページの上部に記載されている。
- 生徒がさまざまな音楽と出合えるよう、さまざまなジャンルの作品が紹介されている。
- 器楽の教科書では、アンサンブルで使用できる楽曲が個別の楽器よりも多く示されている。
- 器楽の教科書では、巻末に折込を利用して、リコーダーの運指やギターとキーボードのコード表が掲載されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域や各活動のページ数と我が国や郷土の音楽、諸外国の音楽等が扱われている楽曲数

○「A表現（歌唱、創作）」及び「B鑑賞」のページ数

領域	活動	1年	2・3年上	2・3年下	合計
A表現	歌唱	53	50	45	148
	創作	7	6	4	17
B鑑賞		25	28	29	82

※巻頭、巻末の楽曲を含む。

○「A表現（器楽）」の楽曲数とページ数

A表現	器楽	リコーダー		ギター		和楽器		アンサンブル	
		曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数	曲数	ページ数
		20	20	2	10	14	33	18	26

(2) 我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽の楽曲数

1年	2・3年上	2・3年下	器楽	合計
6	4	7	22	39

※我が国や郷土の音楽は、我が国のわらべ歌・民謡・古謡・長唄・雅楽・我が国の伝統楽器を使用した音楽、諸外国の音楽は、諸外国の遊び歌・民謡・民族音楽とする。

2 学習指導要領に関すること

- 全ての教科書で、目次に続くページに3つの資質・能力に対応する学習内容や教材が、見開きで示されている。
- 一般教科書において、歌唱、創作、鑑賞の内容がバランスよく構成されている。
- 義務教育9年間の系統性と一貫性を重視して、学習内容が配列されている。
- 教材ごとに学習目標と、それに迫るための具体的な学習活動が例示されている。
- 「深めよう！音楽」のコーナーが新設され、題材についてより深く学んだり、仲間と交流したりできるようになっている。
- 生徒が自分の考えを書き込み、整理するため、直接教科書に書き込めるワークシートが設定されている。
- それぞれの教材において、[共通事項]に示された音楽を形づくっている要素が各ページに文言で示されている。
- その教材において新出した[共通事項]に示された用語や記号等が示されている。
- 共通教材が、「心の歌」として各学年に配置されている。
- 創作では、小学校における「音楽づくり」の学習内容を踏まえながら取り組める教材が示されている。
- 鑑賞教材において、聴く際の道筋となる主な旋律、演奏している楽器等が示されている。
- 鑑賞教材において、作曲者やその音楽が作られた背景等の説明が記されている。
- 我が国や郷土の音楽について、3年間を通して学習できるよう構成されている。
- 全ての教科書において、我が国や郷土の音楽や諸外国の音楽が示されている。
- 器楽の教科書では、和楽器の楽譜に口唱歌（唱歌）が表記されている。
- 全ての教科書で、道徳と関連する教材が示されている。

### 3 実生活との関わり、興味や関心について

- 全ての教科書の巻頭ページには、各界のプロフェッショナルから中学生へのメッセージが示されている。
- 全ての教科書に、3年間を通して様々な「なぜ」と向き合う、「音楽とは何か」に関するページが見開きで示されている。
- 学年に応じたテーマで、全ての教科書に共通して「生活や社会の中の音楽」が示されている。
- 1年と2・3年上において、「リズムゲーム」「リズムアンサンブル」「リズムチャレンジ」のページが設けられ、段階的にリズムの学習ができるようになっている。
- 2・3年下では著作権に関するページが設けられている。
- 震災からの復興をテーマにした楽曲が掲載されている。
- 2・3年下では「SDGs」と関連したコラムが掲載されている。
- 指揮等、体を動かしながら行う体験活動が取り入れられている。
- 1年と2・3年下では、「曲のよさをプレゼンしよう」というページが設定されている。
- 歌唱や器楽において、新曲が多く取り入れられている。
- 中学生が、郷土の祭りや芸能の担い手として活躍する様子が掲載されている。

### 4 表記や表現、資料等に関すること

- 全ての教科書の表紙には、音や音楽と関わる中学生の様子が描かれ、色分けされている。また、裏表紙には教科書に込めた願いが共通して示されている。
- 一般教科書の裏表紙に、郷土芸能の写真が掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。
- 全ての教科書にQRコードが掲載されており、音声や映像が示されている。
- キャラクターの吹き出しや、演奏家のメッセージが記されており、それを参考に表現したり鑑賞したりできるように配慮されている。
- 一般教科書の巻頭に、1年間の学習の見通しをもつためのページが設定されている。
- 1年間の学習事項を一覧で見ることができる「音楽を形づくっている要素」「音楽の約束」のページが設定されている。
- 西洋音楽の鑑賞教材のページには、「+α」として年表が示されている。
- 一般教科書に「歌い継ごう 日本の歌」と「心通う 合唱」が設定されている。
- 我が国に伝わる風習や風景を紹介する写真や文章が掲載されている。
- さまざまなジャンルの作品を紹介する資料が掲載されている。
- 器楽の教科書では、生徒が卒業後も楽器演奏を含めた音楽活動で使用できる、ギターとキーボードに対応したコード表が掲載されている。
- 器楽の教科書では、「打楽器」の項目が設定され、さまざまな楽器の奏法や練習曲が示されている。

